

平成16年度自然公園等事業の新規採択時評価結果 (事業費10億円以上)

平成16年8月18日
環境省自然環境局
自然環境整備課

1 対象事業

新たに予算化しようとする自然公園等事業であって、各事業の国庫補助対象額が10億円以上(見込み)であるもの(2件)を評価の対象とした。

2 概要

地方公共団体、地区自然保護事務所等の各事業主体が実施する自然公園等事業について、事業の必要性、有効性及び効率性等の観点から評価を行う。

ただし、事業の効率性については、各事業主体が各事業に関して実施した費用便益分析の結果を踏まえ、評価を行うものとする。

(1) 評価の観点

必要性、有効性、効率性の他、以下の観点も考慮

自然環境や生態系の保全・再生

- ・自然環境等の保全・再生を図るもの
- ・自然環境の破壊や喪失を未然防止できる 等

自然とのふれあいや環境教育等の推進

- ・自然とのふれあいが向上される
- ・誰でも自然観察や自然体験、自然学習ができるような場がある 等

自然環境・地球環境や利用者等への配慮

- ・自然エネルギーの活用、地域産の木材・石材等天然資材の利用、リサイクル資材の活用
- ・バリアフリー 等

利用の安全性・快適性の向上

- ・利用者の安全確保ができる
- ・利用環境の向上が図られる 等

その他

- ・自然公園等事業以外の公共事業との連携状況
- ・計画性のある事業である 等

(2) 費用便益分析

投じる費用とその施設の供用後から耐用年数までの期間に生ずる便益の比により、投資効果をトラベルコスト法により測定

費用 = 「事業費(用地費を含む)」 + 「維持管理費」

便益 = 「自然公園の利用価値」

公園施設を整備することによって、公園を利用する人々が支出する旅行費用の増加効果を貨幣価値に換算

3 評価内容

別紙「平成16年度自然公園等事業の新規採択時評価結果(事業費10億円以上)」のとおり。

別紙

平成16年度自然公園等事業の新規採択時評価結果(事業費10億円以上)

評価日:平成16年3月30日

(直轄事業)

番号	事業名	(事業主体)	総事業費 (千円)	便 益 (B)		費用 (C) (千円)	B / C	指標等による評価
				総便益 (千円)	便益の主な根拠			
1	円山博物展示施設	西北海道地区自然保護事務所	1,333,000	7,995,106	想定利用者数 268,300	1,465,405	5.46	必要性:国内有数のサロベツ原野の自然観察 有効性:自然環境の保護・再生、自然観察 効率性:投資(費用)に対して総便益が超過 その他:・地域住民等との合意形成がなされている ・自然・地球環境等への配慮がなされている 等
2	乗鞍高原新活性化事業	中部地区自然保護事務所	2,139,000	25,352,968	想定利用者数 751,500	2,654,765	9.55	必要性:乗鞍高原地域の活性化及び持続的な自然公園の管理運営の新たなモデルの確立 有効性:自然とのふれあいの向上、自然学習活動の促進、地域の活性化 効率性:投資(費用)に対して総便益が超過 その他:・自然とのふれあいが図られている ・総合的な整備計画に基づかれている 等